

# 地球市民育成事業

## ●協働先 NGO / NPO

あーすらいふ仙台、アマニ・ヤ・アフリカ、パレスチナ・オリーブ、シャプラニール仙台・ポンドゥの会、アイセック仙台委員会、IVYyouth、麦の会コッペ、SDA白百合開発援助研究会、国際支援団体Triangle、ストリートチルドレン芸術祭、アイセック仙台委員会等

### 実施地域

仙台市内

### 事業実施期間

2008～継続中

### 協力形態

事業協力

### 実施内容

- ・毎年テーマを決めて、そのテーマに沿った市民団体、学生団体と企画展示・活動発表する、ぐろーかるフェアを年1回開催。
- ・海外で活躍している人と市民でお茶を飲みながら、世界の諸問題について語り合うカフェスタイルの交流（カフェぐろーかる）を年に2～4回開催。

### 事業目的 / 背景

市民活動団体や国際協力活動をしている学生団体と催しを行い、企画展示や活動紹介を通して、市民が自ら世界の諸問題について考え、行動するきっかけを作る。

### 協働のきっかけ

当協会で学校や市民センター等の国際理解授業・事業に外国籍市民やNGO団体等の講師を派遣しているが、その中で連携が深まってきたNGO団体との話し合いの中で、合同イベントを企画・実施することになった。

### 役割分担

自治体側：  
広報、企画



## NGO／NPO側：

団体の活動紹介、国際協力活動報告、フェアトレード品販売

### 協働によるメリット等

#### メリット：

- ・国際交流協会の事業を市民団体（市民に近い）の目線で企画・実施することができる。
- ・市民団体や学生団体に企画から関わってもらうことで、幅広い層に広報することができる。

### 協働する上で配慮した点

- ・参加団体の活動内容・報告や活動に当たっての思いを、的確に来場者へ伝えること。
- ・毎年の催事テーマをより多くの市民へ伝えること。

### 事業実施までの問題とその対応

会場（せんだいメディアテーク）の規定が変更になり、フェアトレード品であっても物品販売が規制される可能性があると考えられる。

### 事業実施後の問題とその対応

来年度に向けて、会場側との情報交換を進め、開催可能な形式を考えておく。

### 事業評価／今後の展望

年一度のぐろーかるフェアに関しては、年々周知されるようになり、フェアトレード品を扱う市民団体や、国際協力をしている学生サークル団体の活動を広める良いきっかけとなっている。また、ぐろーかるフェアの前後にカフェぐろーかるで交流をすることにより、世界の諸問題について、より理解を深めることができています。

今後も、テーマや趣向を変えながら、市民レベルで広めていきたい事業である。

